

日本銀行富山事務所長
佐子 裕厚

富山はアイスランドになれるでしょうか

昨年11月初旬、県ナチュラリスト協会の方に誘われて、黒部峡谷鉄道の樺平駅から祖母谷(ばばだに)温泉まで歩く黒部市主催のウォーキングイベントに参加しました。この辺りは黒部峡谷の最深部。断崖絶壁の遙か下方に見えるライトブルーの黒部川と一面の紅葉・黄葉のコントラストが見事でした。

祖母谷温泉では湯量の豊富さに驚きました。「地獄」と呼ばれる一隅があり、高温の湯から陽炎と蒸気が荒々しく立ち上っていました。

最近、富山県は地熱資源が豊かな県であることを知りました。

環境省の調査では、富山県の地熱資源の腑存量は北海道に次いで全国第2位で¹、富山大学の分析によれば、富山県民が消費する全ての電力を賄うことが出来る量だそうです。豊富な水力発電に加えて、地熱資源も有効に使えば、富山県は「日本一エコな県」ということになります。まるで極北の国アイスランドです²。

この豊かな地熱資源も立山連峰の恵みの一つで、県内では立山連峰エリアの2か所(宇奈月温泉地域と立山山麓地域)で地熱資源開発事業が進められており、両者とも経済産業省が進める「地熱資源開発調査事業」に採択されています(平成25年度)。県も「再生可能エネルギービジョン」(仮称)の策定作業を進め、地熱資源の活用促進も重点施策の一つになりそうです。

ただ、富山県の地熱資源がある地域は殆どが国立公園の中にあるため、種々の制約があるのも事実です³。自然との共生を意識しながら開発を進めていかなければならない訳ですが、地熱は、発電に止まらず、家屋の暖房、給湯、融雪にも応用可能で、夢は大きく広がります。

「今年の富山県は雪が少なくて助かったけど、38豪雪のときは酷かった。家の1階が雪に埋もれ、2階から出入りした。」知人の方に言われました。

近い将来、富山県では「雪かき」という言葉が死語になるかもしれない、そんなことを考えました。

以 上

¹ 発電量に直すと244万KW。ちなみに、黒四発電所は33万5千KWです。

² アイスランドは、必要な電力の約7割を水力、約3割を地熱で賄っています。火力・原子力発電所はありません。

³ 平成24年3月、環境省は、国立公園第二種特別地域と第三種特別地域での地熱開発を容認しました。ただ、特別保護地区、第一種特別地域での開発は認められていません。